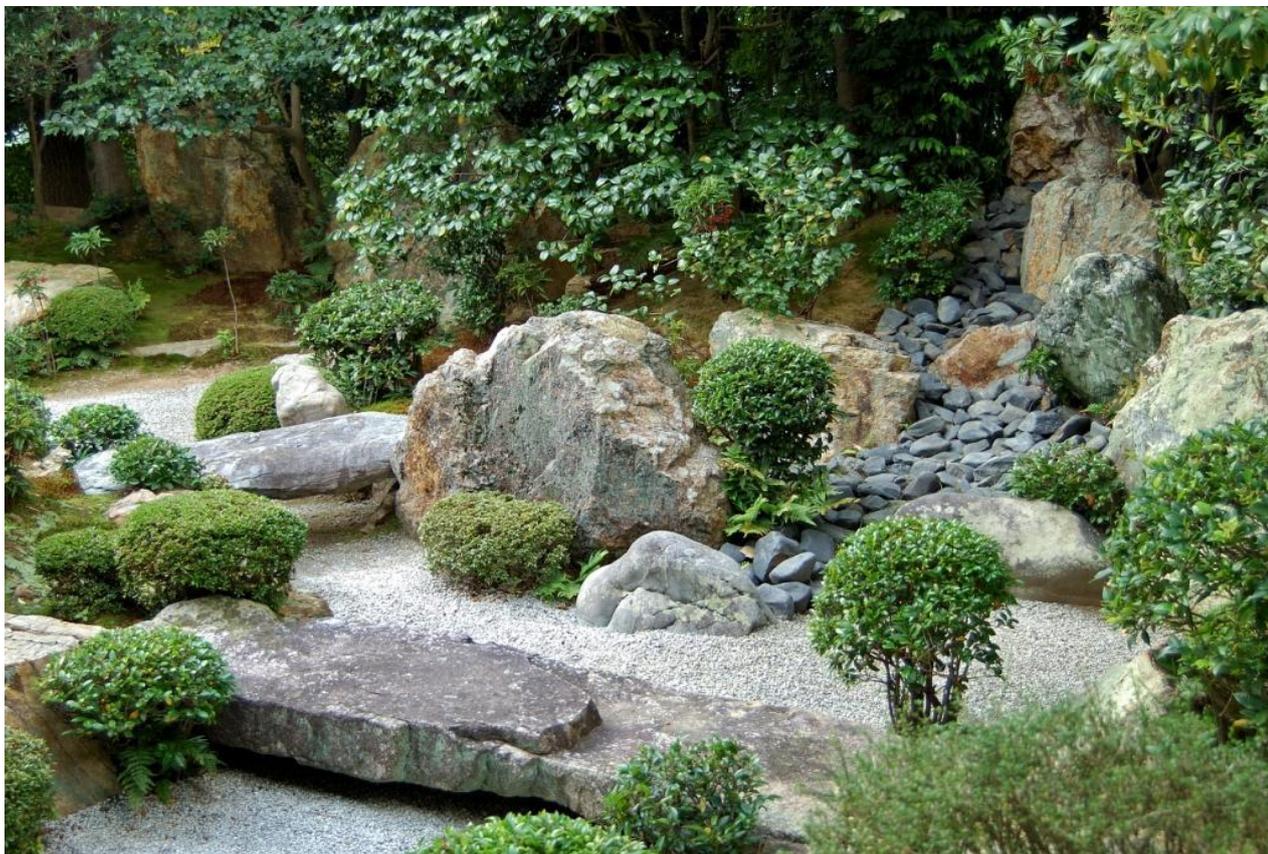


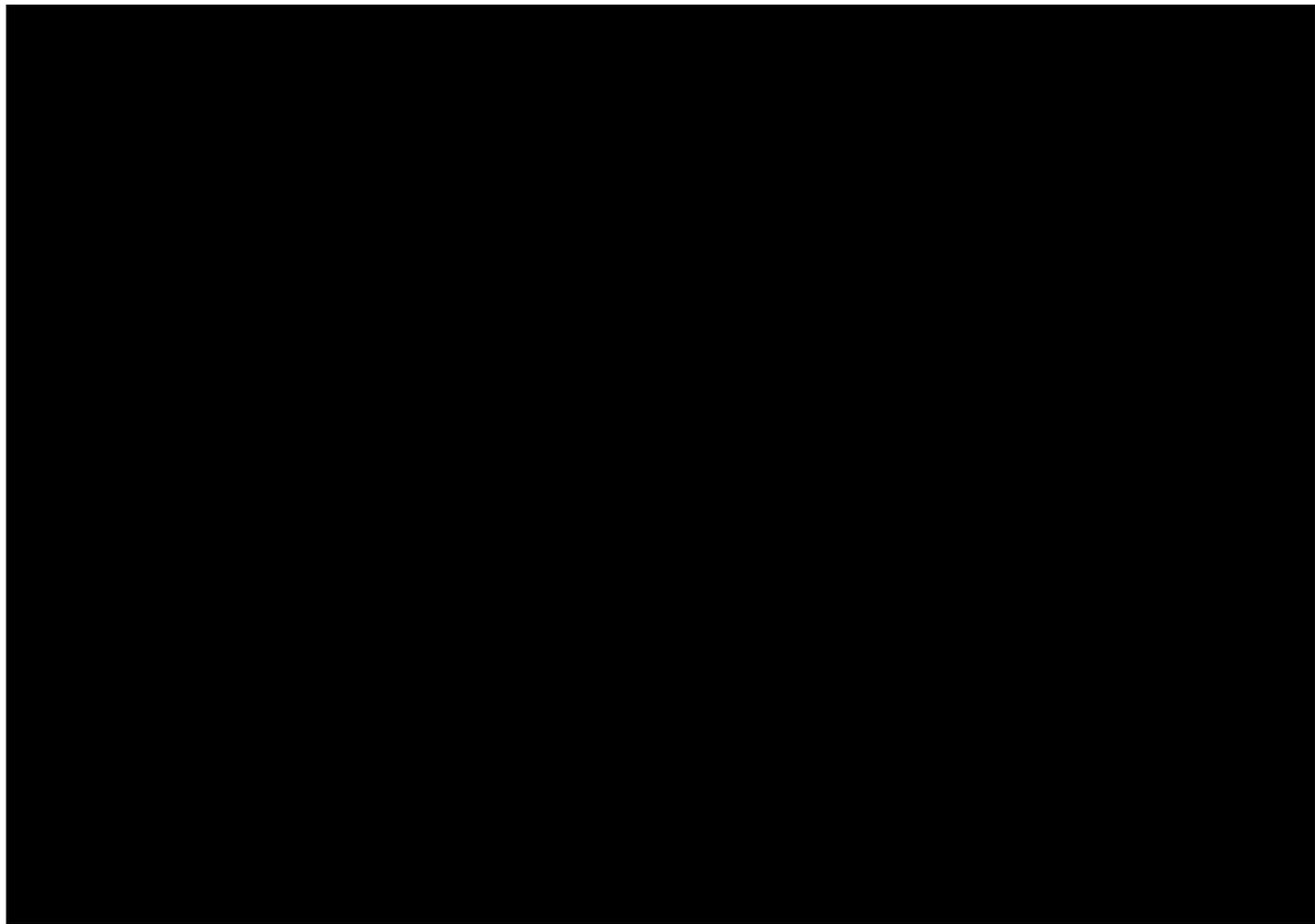
枯池に亀島と鶴出島、石橋、枯滝、蓬萊山と狭いところに全部入っている。この立体山水画ともいえる庭は狩野派の祖と云われる狩野元信の作と云われている。と云うのは、庭の構成は伝狩野元信筆の「琴棋書画図」(霊雲院蔵)の滝や石橋の位置、石組みの構成などがそっくりであることに所以している。作庭時期は1558年の開山200年忌に作られた、と言われている。なお、亀島には石橋が架かっているが、本来神仙島は人間が踏み込めない聖域であったが、ここでは水墨画では滝の前に橋が架かっているの、神仙島には橋が架からない、という伝統が打破されたのであろう。



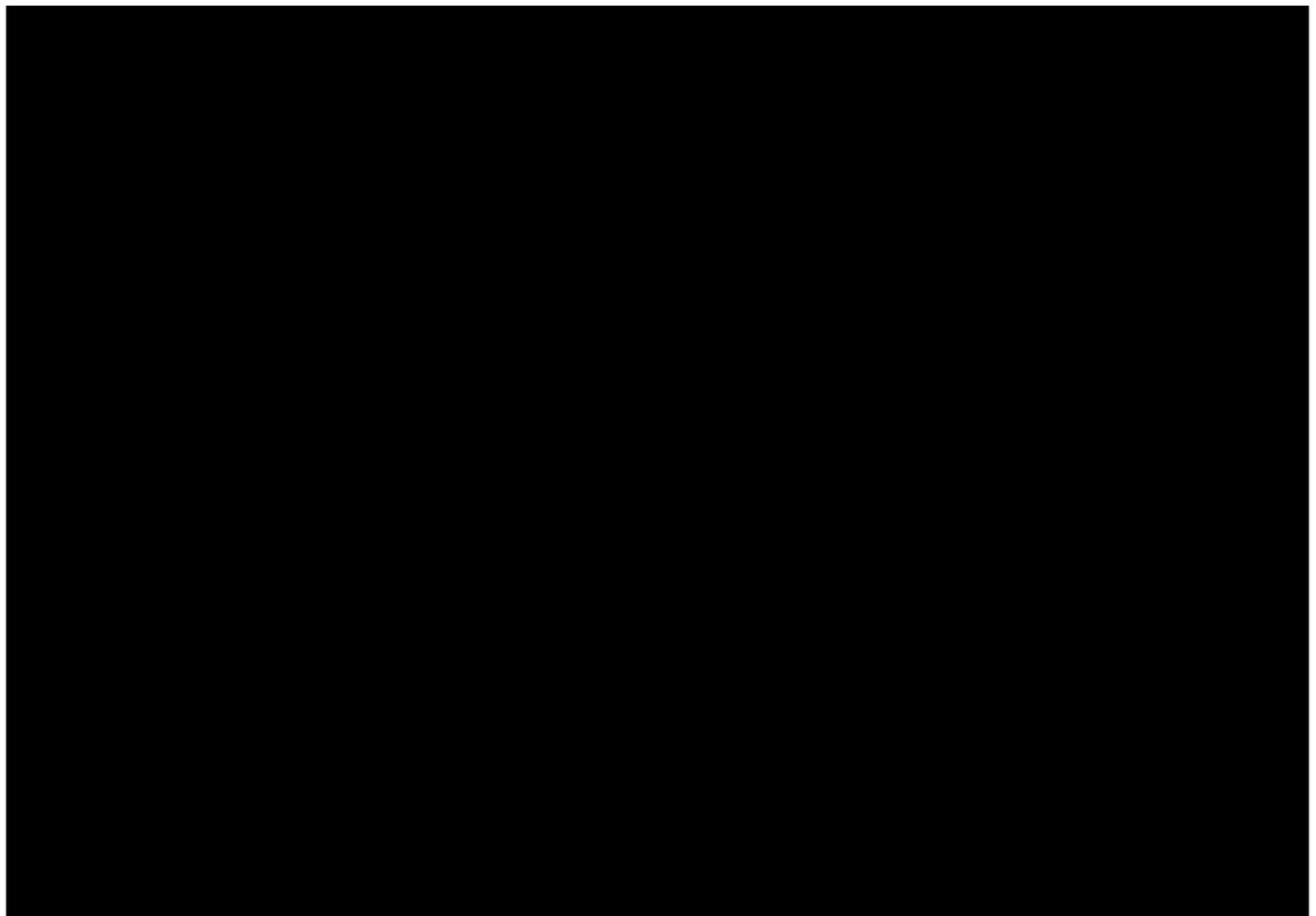
枯滝の前に石橋が架かるのは「琴棋書画図」の影響。水墨画の舶来により日本庭園の造形性は飛躍的に発展した証



伝狩野元信筆の「琴棋書画図」は滝前に石橋が架かる(野村勘治氏のスケッチによる)



亀島が中心にあり、その左側に鶴島があり(現在は手水鉢)、築山には蓬莱連山があるので、鶴亀蓬莱の庭と云える。



現在蹲踞がある場所は当初は鶴出島であったと考えられる